

日韓市民ネットワーク・なごや

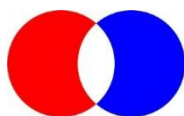
会報 No. 76
2016-1-7

한일 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://home.m00.itscom.net/nikkan/index.html>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- 1 事務局通信
- 2 おしらせ
- 3 野遊会・九州北部紀行感想文
- 4 トピックス

統括幹事：後藤和晃
事務局
参加者の皆さん
統括幹事

事務局通信

사무국 통신

事務局統括幹事 後藤和晃

1. 神仏混交の原郷を旅して ～日韓交流史紀行・九州北部～

12月4日から4日間、九州北部の福岡県宗像市から大分県の宇佐市、国東半島にかけて、日本特有の「神仏混交」の原郷を探る旅行を行いました。

参加者は、講師の西谷 正先生(元日本考古学会長)や武井 一さん(日比谷高教師)を含め28人。ほとんどが過去 2,000 年に及ぶ日本と韓半島との多彩な繋がりに関心があり、これまで韓国各地や古代朝鮮と係わりが深かった中国の東北地方(旧満州)や山東半島にまで足を延ばしてきた人たちでした。

今回の旅で私を含め参加者の多くは、日本独特の宗教意識の根源について、目からうろこが落ちるような思いを味わったと思います。

それは神も仏も等しく受け入れて恬淡としている日本人の宗教感(神仏混交)が、千数百年も昔に、ここ九州北部で生まれ、大和王権との密接な関係をバネに全国に拡散していったという歴史でした。

少し詳しく言えば宗像から宇佐、国東半島の一帯は弥生や古墳時代の大昔から古代中国や朝鮮各国の先進文化、そして、それを運んできた渡来人のDNAを受け入れてきた所です。もとより、この一帯にも大自然の山や森、精霊などへの信仰を持つ縄文人の子孫も住んでいたことでしょう。

そこに、主に韓半島からの渡来人が中国由来の天や山岳信仰を伴う道教や多様な仏教思想を持ち込んできます。そして、これらの信仰と在来の信仰が混然一体となって融和し、神仏混交の思想が誕生したと言えます。

神仏混交の思想を広めたのは八幡信仰の総本山という宇佐神宮でした。渡来系の神官もいたこの神

社では早い段階で境内に神宮寺を併設し僧も育てます。一方で、祭神に新羅との戦に勝利したとの伝承を持つ神功皇后と、その子応神天皇も加えます。その結果、八幡信仰のイメージは一気に上昇、やがて全国に 4 万以上の末社を抱える日本最大の神社集団に成長していきます。

中央の大和王朝も国家の権威を高めるため仏教を保護し国分寺の建設を進めますが、一方では神祇官を置き、全国の主な神社に官位を与えるなど手厚く保護しました。いらい千数百年、日本人の心の中には「神も仏も」共に住みついてきました。こうした日本人の多神教的な宗教感には欧米や中東の人々には決して理解されないでしょう。



しかし、キリスト教やイスラム教などの一神教の国々が今、世界の至る所で憎しみ合い、戦火を交えているのを見る時「神仏混交」という、ゆるい宗教観を産み育ててきた先人たちの知恵に感謝しなければ…と思った旅でした。



日韓交流史紀行・九州北部 28名参加者の皆さん



赤塚古墳

2. 交流の花開いた日韓大野遊会

10月31日(土)犬山市の入鹿池の奥に広がる八曾自然林を舞台として、恒例の野遊会(秋の自然の中で楽しもうという韓国の風習)を行いました。

今年は留学生が30人も参加したのをはじめ民団青年会の幹部に名古屋国際センターのメンバー、会員や協力者の皆さん等々、なんと！72人というこれまでに最多の方々に来ていただきました。中には、この日よりわずか1週間前のワールドコラボフェスタ(後述)の際、会員になった元銀行員の男性や、この春就職したばかりという新聞社の新人女性記者もいました。



日韓大野遊会 72名参加者の皆さん

集まった人たちのうち留学生や日本人学生、それに足腰に自信のある人たちは、朝の10時から2時間かけて八曾の滝まで往復する山歩きを敢行しました。正午過ぎからは72人全員のミーティングを行った後、屋根付きのバーベキュー場で秋の味を楽しみながら交流会となりました。

用意したのは、まず「いも煮」でした。東北の人たちが秋、川の畔でその味を楽しむというもので、さといも、にんじん、ごぼう、油揚げ、豚肉などを味噌味でじっくり煮込みました。李尚勲さんの奥さんも毎年好評の手作りチヂミを提供していただきました。

この他にもカレーライスや大量の肉と野菜を用意した焼肉も食べてもらいました。

参加者の皆さんは、ビールや焼酎などのグラスを片手に秋の味を楽しみながら、初めての出会いを意義のあるものにしようと熱を帯びた会話に打ち込んでいました。

その中でも戦前、大田に住んでいた大久保 孝造さん親子が大田出身の留学生と話し込んでいたり、この春、大邱の水崎翁追慕祭に参加した人たちが大邱からの留学生と交流している姿には胸を打つものがありました。

今回は72人という本当に数多い参加者があり、料理の準備が大変だったのですが、こうした際にいつも総料理長を買ってでていただいている協力者の中川修介さんの包丁さばきは実に「おみごと」というしかありませんでした。また、その中川さんの指示を受けながら調理の手伝いから「いも煮」の配達まで大活躍していただいたのが大学生会員の鈴木 健介君のご両親でした。心から御礼を申し上げます。

さて、今回はこれまでにない多数の参加者が想定された中、お2人の方から事前に多額の寄付の申し出を受けました。名古屋韓国総領事館の朴煥善総領事からは、13万円。その上、例年多額の寄付をい

ただいているサンテックの鄭禧昇会長からも 8 万円もの支援を受けたのです。また、金龍鐘さんからも 1 万円、大久保孝造さんからも 5 千円の寄付があり、

参加した若い人たちの感想文(5頁から)もご覧ください。

3. ワールドコラボフェスタで成果 ～名古屋市栄・オアシス21～

10 月 24 日(土)と 25 日(日)、私たちの会はオアシス21で開催されたワールドコラボフェスタ2015に参加しました。このフェスタは愛知県と名古屋市の共催によるもので県内の国際交流団体が一堂に会しそれぞれの活動内容を紹介すると共に多文化共生への気運を盛り上げていこうとするものです。

私たちの会も 2 日間にわたって幅 1.8mのブースで会の活動内容を紹介しましたが、女性会員 2 人がチマチョゴリに身を包んで応待につとめたため、かなり目立つ結果になりました。

2 人の女性とは、河合真樹さんと石田樹梨さんで、いずれも見事にコリアン美人に変身を遂げており立

お陰で来年の野遊会に 8 万円の残金を送ることができました。皆さんのご厚意に心から感謝申し上げます。

ち寄った人たちが「えっ！日本人なの！？ てっきり韓国女性だと思ったわ！」などと感心していました。

彼女たちの応待も素晴らしかったため、2 日間で数人の方から「会に入会したい！」との申し込みがありました。そのうちの 2 人の方が 1 週間後に犬山の大自然の中で開いた「野遊会」にさっそく参加されたことは前述の通りです。

私たちの会がワールドコラボフェスタに参加するのは7～8年ぶりの事でしたが、予想以上(?)の成果が上がったとあって事務局会議では「2016 年度もフェスタに参加したら？」との声が出ています。



河合真樹さんと石田樹梨さん

4. 韓日国交正常化 50 周年記念交流会に参加 ～10 月 3 日・名古屋キャッスル～

韓国の開天節にあたる 10 月 3 日ナゴヤキャッスルで名古屋韓国総領事館と民団の共催による国交正常化の 50 周年を祝う大交流会がありました。私たちの会からも、石原俊洋さん、鈴木健介君、私 後藤などが招待されて出席しましたが会場の天守の間には、およそ 300 人もの顔が並び壮観でした。

この日は、朴煥善韓国総領事から式辞と歓迎の挨拶があった後、来賓として愛知県の大村知事が韓国語を交えながらユーモアたっぷりの挨拶をして盛大な拍手を受けていました。一方、これまで日韓の大きな集いにほとんど顔を見せる事のなかった名古屋の河村市長も「50 年目の節目にはやはり顔を出さなければ…」と壇に登り、慣れない韓国語も使って参加者の笑いを誘っていました。

この日、私たちのグループの中では大学生の鈴木健介君が大活躍しました。講師として出席していた姜尚中さんとドイツへの留学を果たした同志の情報交換をしたり、民団の団長以下の幹部たちや名古屋大学で教鞭をとっている韓国人教授等々、多彩な出席メンバーと交流している姿は誠に頼もしいものでした。



日韓国交正常化50周年記念式典
名古屋キャッスル会場風景



알림 お知らせ

1 “2016 年新春交流会” で会いましょう！

若者から留学生、現役サラリーマンからシニアに至るまで多彩な会員が一堂に集い、交流の咲かせる恒例の新春交流会を下記により、名古屋駅前で開催します。去年は終戦より 70 周年、そして日韓の国交正常から 50 周年という節目の年でした。皆さん方も様々な集いに係わり、その都度、何があっても日韓の絆を強めていかなければとの思いに駆られたのではないのでしょうか？

去年の暮れには、産経新聞のソウル支局長が自社のウェブサイトで大統領を誹謗した記事を書いたとして訴えられた裁判でソウル地裁は「記事は言論の自由の範囲のものであり、大統領を誹謗する目的は、なかった」と判断、無罪を言いわたしました。この判決は国交正常化 50 周年の年の最後に、韓国が対日関係に最大限の配慮を行ったものと考えられ、私たち一

人も心底からホットしたものでした。

2016 年は、50 周年を祝った去年の成果の上に、さらに日韓の相互理解と協力を進める年になるでしょう。こんどの新春交流会も去年、交流の輪に加わってもらった留学生会や民団、青年会のメンバー、それにワールドコラボを、きっかけに新しく会員になった人たちも参加します。京都に住んでいる韓国人女性の美術家ペ・サンスンさんも「名古屋の皆さんと、もっと仲良くなりたい」と出席されるそうです。

それだけでなく、この一年、会の活動を支援していただいた韓国総領事館の朴煥善総領事をはじめ、日韓親善協会・名古屋の矢野秀則会長や琥珀の会長、鄭煥麒さん、サンテックの会長、鄭禧昇さんなど、そうそうたる方々も顔を揃え、歓談に加わっていただける予定です。ぜひ、ご参加下さい！

2016 年 新春交流会

- 1 日 時 2月7日(日)17:00～
- 2 場 所 名古屋駅前、ミッドランドの南隣りコハクビル2F
伊太利料理店ゼンゼロ(地図参照)
TEL 052-565-0001
- 3 参加費 成人 5.000 円、大学生 3.000 円、留学生無料
- 4 参加連絡 参加いただける方は同封のハガキを1月 25 日までに投函してください。
また参加費についても、同封の郵便振替用紙でやはり 25 日までに郵便局からお振込み願います。
当日払いですと店の入り口が、ひどく混雑しますので宜しくご協力ください。



琥珀ビル 2 階 ゼンゼロ店内

2 第19回総会を3月に開きます ～名古屋・国際センター～

私たちの会は1998年の2月に発足しました。いらい、なんと満18年間の歳月が過ぎ去り第19回総会を下記により開催する運びとなりました。今回も例年通り、前年度の活動内容を再確認すると共に、2016年度の実施行事を話し合いの上、決定したいと考えています。行事の詳細に触れる余裕はありませんが、2016年度も日韓の絆を強める様々な交流行事を提案する予定です。また

日韓交流史紀行は、これまでと切り口が違う魅力的な旅行を提案しますし、他団体とも協力して10年余り継続中の韓日歴史フォーラムの講演者も韓国から超一流の歴史学者を、お招きするつもりでいます。

この総会には、韓国大田市の博物館のメンバーが、スケジュールを調整できれば、来日し出席したいと打診してきています。大田市博物館は、すでに会報でお知らせした通り大田の街の草創期に当時住んでいた日本人たちの貢献が大

きかったと認め、博物館の展示にその歴史をしっかりと展示しています。今年の9月にも名古屋に来て京都の美術家ペ・サンスンさん共ども、春日井や江南に住んでいる大田からの引揚者を訪問、取材も行いました。万一、幸いにして大田のメンバーも総会に参加できれば、総会終了後の懇親会が一層、盛り上がることでしょう。

なお、総会の最後に議題ではなく、話題という形で2017年に北朝鮮への日韓交流史紀行を行いたいことをお知らせするつもりです。会創立いらい、私たちは、日韓交流史を現地で見ようと、国内ばかりか韓国各地、そして古代朝鮮各国と関わりがあった中国の東北部（旧満州地方）や山東半島までも、徹底的に旅を重ねました。その結果、ついに北朝鮮地域だけが残ってしまいました。この地域に残る高句麗や高麗の遺跡、なにかずく壮麗な壁画古墳を見てきたいと考えており、計画の素案をお話しするつもりです。この日もぜひお出かけ下さい。

第19回総会

1 日時 3月6日(日) 15:00

2 場所 名古屋国際センター3F 第2研修室
名古屋駅から徒歩10分 地下鉄桜通線国際センター駅から徒歩1分
※上記の地図を参考においでください



犬山・大野遊会の感想文

森田真奈子

私は愛知県には今年の4月に来たばかりですが、今回は偶然の縁から野遊会に誘っていただきました。初めての土地での心細さもあっただけに、会ではたくさんの皆さんと新しいつながりを築けたことを大変ありがたく感じています。

大学の時に韓国に留学していたため、これまでも韓国人の友達は多かったですが、今回のように、年齢や職業などが様々に異なる人が集まる場に参加したことは少なかったです。同世代間の交流だけでは巡りあえないような新鮮な出会いがたくさんあり、自分がこれま



で知らなかった「日韓」や「韓国」と接する機会になったと思います。

中でも、戦前に韓国の大田で育ったという大久保孝造さんとお話でき、その後、大久保さんから大田中学の同窓誌などを送っていただけたことを本当に貴重に感じています。植民地時代に朝鮮半島で日本人がどのように暮らしていたのか、現地の人と、どのような交流があったのかについては非常に興味がありましたが、実際に体験した方と、まさか出会えるとは思いませんでした。

記者としても日韓に関わる取材としようとしています、政治状況を気にして取材を断られることもあり、思った以上に難しい時代なのだと実感させられています。皆でバーベキューを楽しみ、アリランを歌いながら、このような温かい交流の場が当たり前のものとなるよう、報道の立場からできることを探したいと改めて思われる一日でした。

石田樹梨

今年もやってきた毎年恒例の交流会。私は大学を少し前に卒業しましたが、今年も韓国人留学生と連絡をしたり、日本人の参加者を集めたりするお手伝いをしました。特に今年は、韓国人留学生の方と連絡をとっていると、参加を希望した人が多く、積極的だという印象を受けました。そして最終的には、バスに乗り切れないくらいのたくさん韓国人留学生が参加をしてくれました。(ありがとうございます!!)

毎年、交流会当日は雨が降る日が多かったので今年も天気が悪いのではないかと心配をしていましたが今年はなんと晴れだったので、晴れただけでもとても嬉しかったです。



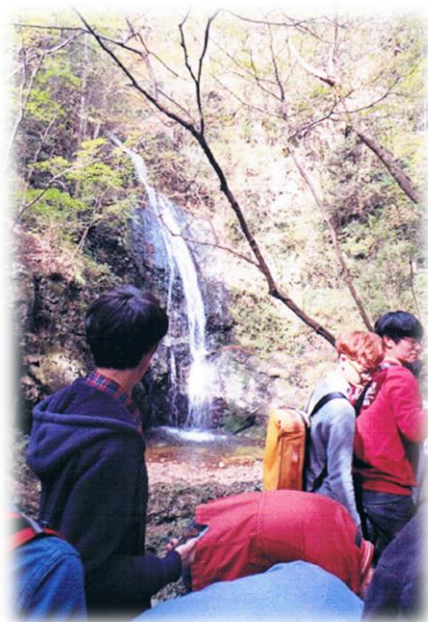
八曾の森については、留学生のみんなとハイキングをしました。ハイキングでは今年の10月に日本に来たばかりだという留学生の方と話をしました。日本語がまだできないと言いながら一生懸命日本語を話そうとし、練習したり日本語について質問をする姿勢はとても良く、見習わなければいけないと思いました。ハイキングから戻ってきてからバーベキューが始まる前には代表の方が何人か挨拶をされましたが、私は鈴木くんの「こんにちは」という一言だけでもここにいる人と話をしてくださいと言った言葉がとても心に残りました。なぜなら、こんにちはという言葉だけでも簡単に会話を始めることができると思ったからです。バーベキューの時にはたくさんの人と話をしました。私に話しかけてくれる韓国人の人も多く、みんなが積極

的でよかったと思いました。

バーベキューの時間は早く過ぎてしまい残念でしたが、交流会が終わった後日、交流会で会った留学生と日本人の友人の何人かで集まり、ご飯を食べに行きました。これからもたまに会って、韓国のことや日本のこと、色々なことが話せたらいいなと思いました。これからもこのように交流をしながら日本人、韓国人関係なしに友好関係を築けていけたらなと思います。交流会のために準備してくださった皆様、ありがとうございました。

名古屋工業大学 イ・チャンユン

私は日本に来たばかりで日韓市民ネットワークの交流会に初めて参加しました。去年は雨が激しく降ったと聞きましたが、今年は天気よくて、散歩しながら先輩と話し合えて、いい時間だと思いました。最初はただ遊びに行く気軽な考えで行きましたが、実際に行って、いろいろなことを学ぶことができました。まず、私に一番印象的だった話は「目標を一行で話せるようにしなさい」という助言でした。確かに、一行で説明できる目標があれば乱雑なことは考えずに夢に向けて進められると思いました。それで私も来年四月に入学する前に一行で説明できる目標を作ることになりました。次は、韓国から留学してきた我々は、ただ日本の大学を卒業するだけではなく、未来に、韓国と日本両国の関係発展の架け橋になれる重要な役割を持っているのを改めて感じました。また、韓国と日本との関係発展のために、このようなネットワーク団体があって、様々な交流を行っていることが初めて分かりました。両国のために一生懸命に働いている日本人学生を見て私の姿を反省しました。また、迷



って話しかけれなかった私に先に話しかけてくれた方々に感謝します。おかげで、日本で「韓国の情」を感じました。韓国人と日本人の間に意外に忘れていた在日にも関心を持って活動していることにも習えることがたくさんありました。これからもこのような交流を拡大して韓国人と日本人お互いに先入観なしに話し合って発展してほしいです。今回招待してくれてありがとうございました

名古屋工業大学 イ ソンジェ



私は今年の10月にはじめて名古屋工業大学の学生として日本に来ました。そして今回はじめて日韓市民ネットワーク主催のBBQ パーティーに参加させていただきました。実は私は先輩たちに誘われただけで、この場の目的など一切考えずに参加しました。BBQ パーティーが開かれる所に着いたらそのパーティーには留学生たちや日本人の大学生、日本で働いている韓国人の方などさまざまな分野で活動している韓国人、日本人の方々が集まっていました。BBQ を始めながら私はその方たちを通じて日本と韓国の交流に関して、そして良い友好関係のための民間の役割とその重要性を学びました。また、

日本に留学に来た留学生として私自身自身がどのような考えを持って、今後の生活を続けるべきか改めて考えさせた機会にもなったと思います。私はこのような小さな機会ではありますが、韓日関係において、お互いの理解を高めることができる一步になることができると考えています。BBQ をしながら良い話をしてくださったり、私たちにあれこれ教えていただいた方々への感謝は忘れられないものです。このような機会を設けていただいて苦労してくださったすべての方々に本当に感謝していると、再びお伝えしたいと思います。

名古屋大学 工学部1年 作成者:張世仁(ジャンセイン)

今回犬山市であった日韓交流行事を通して、今までは考えてなかったことについて考えてみるようになりました。普段、学校では在日の学生と接するの少ないし、韓国のことについて深く話したことが全然ないですが、今回の野遊会で、それができて嬉しかったです。特に、トレッキングの時、道を案内してくださった田口さんが記憶に残っています。田口さんからいまだに聞いたことのない、朝鮮通信使など、朝鮮時代の歴史についての日本人の考えを聞かせていただいてとても興味深かったです。韓国人だとしても、こういう朝鮮時代のことについてあまり知らない人が沢山いるのに、日本人が知っていることに驚きました。もちろん、バーベキューも美味しかったし、カレーや豚汁も本当に美味しかったです。美味しい食べ物と色んな日本の方々とお話もできてものすごく楽しい経験になりました。また機会があったら、ぜひ参加したいと思います。



イ

イ・テヒ

名古屋大学駅の前で、名古屋大学と名古屋工業大学の友達と先輩たちに、朝早くに会ってバスに乗りました。時々、会う友達と先輩たちだけど、日本の人たちと会うという日なので、大変力強く感じました。日韓市民ネットワークの人たちと犬山の八曽で合流し、ご飯を食べる前に、日本の人たちと一緒に山歩きのしました。私は別にたくさんは話しませんでした、私より1年上の先輩は日本人のおじさんと多くの話をしました。先輩はおじさんと韓国ドラマのこととスキーとおじさんが勧めてくれた日本の本について話をしました。日本人とよく話す先輩の姿を見て格好良いと思いました。散歩を終えて、韓国人と日本人が輪になって集まりました。そして日韓市民ネットワ



ークを主催した人たちが一人ずつ話をしました。人々が一人ずつ話す話は全部違いますが、最も印象に残った話はお互いに「こんにちは」の一言でも話しましょう、とのことでした。食事を始めて日本人記者と話をしました。記者といろいろな話をして楽しかったです。そして22歳の日本人と話をしました。すごく優しくて韓国語が上手だったのでびっくりしました。食べたあとに帰るのが少し残念でした。



九州北部紀行の感想文

石割 三千雄

私たちの旅行は後藤和晃さんを団長に、西谷正先生・武井一先生を講師にした朝鮮文化の影響を九州北部に訪ねる一行28名・3泊4日の旅でした。この旅の見どころは宗像・宇佐・国東半島の各近郊地域になります。本稿ではこれらの地区で見た印象深い事柄を自分流にまとめてみます。

船原古墳遺跡

この旅の第1撃、平成25年3月に発見されたという船原古墳の遺物埋納坑は馬具をはじめ所謂、騎馬民族の文化を含んでいることが判明した。「騎馬民族は来た」とか「来なかった」とか議論が盛んであるが、やはり「来た」と言うのが正しいと思われる。重要文化財(往年の国宝)の指定を申請中で、もう直ぐにでも認可されるであろうと言うことです。出土遺物を拝観することはできなかったが6世紀末から7世紀初めの遺物であるらしい。そのころ大和では天武天皇や文武天皇が宮廷内で覇を競っていたころです。この地方にも燦然と輝く金の文化を持った豪族が活躍していた事を偲ばせてくれます。

宗像(古くは胸肩・胸形とも記す)地区

この地域は宗像大社を中心にして発達してきたと言っても良いであろう。宗像大社とは田心姫(たごりひめ)神・湍津姫(たぎつひめ)神・市杵島姫(いちきしまひめ)神の三女神をそれぞれ沖津宮(おきつぐう)・中津宮(なかつぐう)・辺津宮(へつぐう)に祀る神社でこの三宮の総称です。また沖津宮の沖ノ島と中津宮の大島は宗像と朝鮮半島を結ぶ玄界灘航路の中継地点となっていたと思われます。日本書紀では「道主貴(みちぬしのむち)」とされています。まさに私たちの「日韓交流史フォーラム」に相応しい見所と言えると思いました。私たちは宗像大社本殿を参拝した後、神宝館を見学しました。ここでは日朝間の交流の間に生じた文物を展示しており大いに興味深く参観しました。



香春を中心とした地区

JRの香春(かわら)の駅の前に立って眺めると三つのお椀を伏せたようなピークを持つ香春岳がみえる。南から一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳、と呼ばれている。古代には銅の産出が主であったが近年ではセメントの原料石灰岩の採取山となっている。ここでは筆者の考えを端的に書こう、香春神社に祀られる辛国息長大姫大目命(カラクニオキナガオオヒメオオマノミコト)の名を見れば明らかであるように辛／加羅の国つまり朝鮮の神を祀っているのです。また、風土記・豊前国の逸文に『…むかし、新羅の国の神、自らわたり来たりて、この河原に住みき。すなわち、名づけて鹿春の神という。…』とあるように朝鮮からの渡来の郷であったことが明確に記録されています。

英彦山を中心とした地区

宗像から宇佐への行程はその途中に美しい装飾を保つ竹原古墳をはじめ、香春(かわら)、修験道の中心になる英彦山(ひこさん)などを訪れた。英彦山神宮を参拝のあと修験道館を見学した。この文化は朝鮮文化との関係を基にして日本古来の物にした特異な文化であると考えられる。英彦山の開山は忍辱上人(にんにくしょうにん)と言い英彦山神宮の基となる霊仙寺を築いたという、まさに神仏混淆の場所である。山の上にある霊仙寺へはケーブルカーを利用する。周りの山々を望みながらこれ程の文化をこの高さまで持ち上げた人々の力は偉大なものであると思った。そんなことを感じながらこの山を巡った。

宇佐神宮を中心とした地区

宇佐といえば古代三神を祀った宇佐神宮を思い浮かべます。三神とそれを祀る御殿はつぎのとおり、すなわち、神功皇后(一之御殿)、比売大神(二之御殿)、八幡大神(三之御殿)を言う。神功皇后とは息長帯姫命、比売大神とは多岐津姫命、市来嶋姫命、多紀里姫命三女神を合わせて言います。八幡大神は応神天皇 つまり誉田別尊のことを言います。

いずれの神様が祀られるにせよ宇佐神宮があるいは宇佐地方が日本の国の始まりに大きな役割を演じたことを強く示しています。伊勢神宮と並んで日本の国を創建したと言われています。

宇佐神宮の「託宣集」に「辛国の城に始めて八流の幡を天降して、吾は日本の神となれり」とあるように日本と辛国すなわち韓国との密接な関わりを暗示しています。

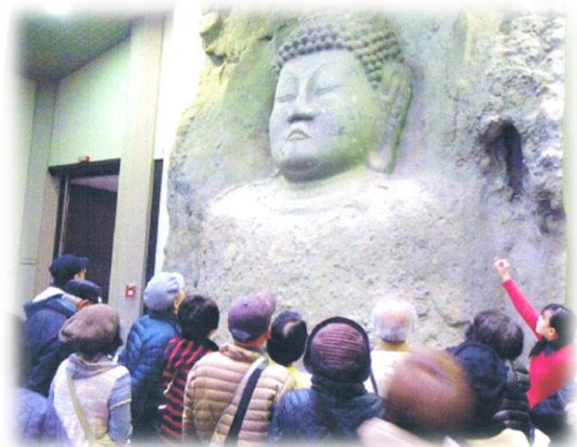
また、一行は今回の旅行の二日目の夕刻、宇佐神宮の創始に関係した薦(こも)神社を参詣した。この神社は池をご神体と見ているとのこと。夕闇に沈んでゆく水面に何やら深い物を感じながら心を残してそこを後にした。

国東半島を中心とした地区

九州の東部に突き出たほぼ円形の国東半島は奈良時代から平安時代にかけて天台仏教と宇佐八幡信仰の神道が混淆した山伏の修行の地として成り立っている。標高が721mの両子(ふたご)山の山頂から海岸に向かって放射状に川が伸びている。そしてこの半島は六郷満山と称せられるように六つの地域に分けられている。この六郷とは来縄(くなわ)・田染(たしぶ)・伊美(いみ)・国東(くにさき)・安岐(あき)・武蔵(むさし)のことです。私たちは富貴寺、長安寺、天念寺、両子寺など半島の山や川の際に建つ寺を参った。元宮磨崖仏はこの半島の山伏の修行の様子を忍ばせるものでした。

また、国東半島で私の印象に残った像があります。天念寺で出会った太郎天像がそれです。セイタカ童子とコンカラ童子を脇侍に従えたほぼ等身大の櫃(かや)の木像です。この寺の本尊と言いますから仏像ですが、やや仏らしからぬ優しさを持っています。

以上のほかにも幾つかの神社、仏閣、名所旧跡を見ましたが私の印象に深く残ったものでまとめてみました。またこのような旅行があることを希望します。



山田伸子

20年以前から西谷先生の(自称)岡崎ファンクラブ会員の一人であり、数年前の対馬・壱岐・名護屋城への旅には友人と二人参加であったが、今回は一人。少々不安であったが、大変楽しく、実り多い4日間だった。

1日目(12/4 金)福岡在住45年以上の西谷先生の車窓からの景色の解説は大変有り難かった。そして、各訪問先での担当者からの丁寧な説明を伺えたのも先生のおかげ。初日の宗像氏関連の津屋崎古墳群最西端の宮地嶽古墳は3回目訪問であったが、先生のご指摘により、最奥部側壁に龕(がん)のような切り込みが左右一対あるのに気付くことができた。3日目(12/6)の宇佐神宮も3回目であったが、下宮南の御食川の辺まで行ったり、八角形の石の上で、御井の霊水により刀剣を鍛えたという「御霊水」にも、先生の旧知の研究者の方に案内していただいた。

渡来の痕跡・追跡については、コース設定の工夫により、新羅神が来た道を辿れた。大陸文化を最初に取り入れたことが分かる船原古墳や宗像氏関連の遺跡、神社を初日訪問。2日目(12/5)は竹原古墳の色鮮やかな絵に大陸の影響を見た。豊後から豊前へ渡来人辛島氏を追って香春神社、天台寺跡と新羅人の影を見、特徴ある三つの岳を記憶。宮地嶽神社や香春神社参道の玉垣に支那上海・巨済島・白井などの文字があることに武井先生の指摘で気付いた。山岳信仰と新羅仏教融合の英彦山神宮では、時代は下るが、銅鳥居の銘文に書家洪浩然。その後、辛島氏の神体山稲積山。夕闇せまる薦神社のご神体の池と鳥居は大変に印象深かった。



3日目(12/6)古墳時代に勢力あった宇佐氏の川部高森古墳群の横穴式石室を覗いたり、古墳に上ったり。その地に三輪山・応神信仰の大神氏が進出し、駅館川を挟んで辛島氏と対抗した痕跡の鷹居社、小山田社を訪問。最後に遷座した小椋山の宇佐神宮へ。ここで、昨夕訪ねた薦社の薦枕伝承が繋がった。そして、宇佐氏を再興させた法蓮が修行した地が、昨日の英彦山。その奉幣殿の墓股にデザインされていた万年青は、八幡神が降り立った地の御許山(大元神社)が発祥の地とか。武井先生の大(大神氏+辛島氏+宇佐氏)×英彦山信仰=宇佐八幡という化学反応が起こった。大元神社は三女神信仰なので、初日の宗像神と一緒に。

最終日(12/7)は宇佐信仰の「修行」の部分が国東半島の修験道になるので六郷満山の富貴寺、天念寺、長安寺、両子寺へ。その前訪ねた元宮磨崖仏の半肉彫りという特色にも、新羅石仏の影響があると武井先生。この次は中世の面影を残す世界農業遺産の郷「田染荘」をゆっくり展望所から眺めたい。

最後に、食べ物ではアラカブ(カサゴの一種)・やまめ開きの唐揚げが印象に残った。この充実した旅を計画してくださった日韓交流フォーラムの皆様、両先生に感謝します。



長澤 進

平成27年12月4日から3泊4日で総勢28人の日韓交流史フォーラムの会員が北九州の歴史散策の旅を満喫しました。高齢者は90歳で平均年齢75歳、大学教授銀行頭取市長会社役員一人身になった家庭の主婦など多種多様なメンバー構成です。これまで会の設立以来17年の間高句麗新羅伽耶壱岐対馬出雲中国山東半島等の古墳歴史建造物等を具に探索してきました。

何せ一般のツアー会社の企画より遥かに贅沢な会で日本の考古学の泰斗九州大学教授の西谷正先生、日比谷高等学校の韓国に蒞蓄のある著名な講師武井一氏の講義で何時も大変興味ある学習をさせて頂いています。早朝新幹線で博多に往き早速船原古墳、沖ノ島が眺望される宮地浜に往き津屋崎古墳群の中の宮地嶽古墳を見ます。宗像大社を拝み海のむなかた館を見学。2日目は北方騎馬民族の影響が伺える金製品の装飾馬具が出土した竹原古墳を訪れる。万葉集にも謳われた香春の里神功皇后所縁の清祠殿、香春神社天台寺跡を見学、午後は山間部をバスに揺られ英彦山に参拝、ゴンドラに乗車して幸駅の銅の鳥居を見、花駅では山伏文化財を拝謁し神駅では神宮奉幣殿で参拝しました。中津の薦神社を見て宇佐の町に遅く到着。

3日目は大分県立博物館が対象でしたが広大な宇佐風土記の丘に建設され貴重な古代遺跡が見ものです。古代遺跡は世界的にも自然の要塞山野に囲まれ河川に恵まれあるべくして建設された状況が伺えます。トロイ岩山城マチュピツ安土城皆然りです。古い鷹居神社を経て法鏡寺廃寺跡を見て小山田社を拝し宇佐神宮に参ります。小学校の頃初めて知った有名な和気清麻呂が宇佐神宮に赴いた所で感慨深いものがありました。境内の弥勒寺跡は時あたかも紅葉の照り映える絶景でカメラの撮影には最高の雰囲気でした。



豊後高田で宿泊して最終日は元宮磨崖仏の拝顔です。この地は伝聞菩薩の開祖で六郷満山の寺院が多く阿弥陀如来の鎮座で有名な日本三大遺跡の一つに挙げられる富貴寺があります。長安寺を経て天念寺に出ます。正しく神仏習合の証と言われる唯一の地でお寺と神社が併設されていました。高地にありこんな辺鄙な地に古の人はよくぞ建造したと驚かされる両子寺は天台宗に相応しい名刹でした。5-6世紀の北東アジア三国時代新羅の勢力拡大と倭百済高句麗の関係、騎馬民族の壁画装飾古墳、採銅技術、朝鮮半島の楠交易説特に鉄の見返りに渡したお棺の素材の史実等に感動します。北九州は歴史の宝庫で何処に訪れても興味が湧いてきます。古代では現代の我々が想像する以上に大陸との文化交流が盛んに行われていたか感動します。日本はどんな宗教も受け入れてきた寛容の伝統があったことが目の当たりに理解体験される貴重な旅でした。当地では至る所に世界遺産に登録すべく機運が高揚している印象が残りました。次回の挑戦は後藤晃会長の肝委入りで北朝鮮になる予定です。

ひなざかる宇佐の社にはるばると超えさり来たり和気の清磨

ひなざかる宇佐の社にはるばると超えさり来たり和気の清磨



富貴寺本堂内(復元)

俳句集



冬紅葉

佐藤昭子

見はるかす海に目矢立つ十二月

古墳石撫づる句友や冬うらら

ペンライトで照らす洞窟冬紅葉

杖で指す鴉瓜の実長安寺

両子寺の崖上の塔息白し
ふたこじ



冬日

山本玲子

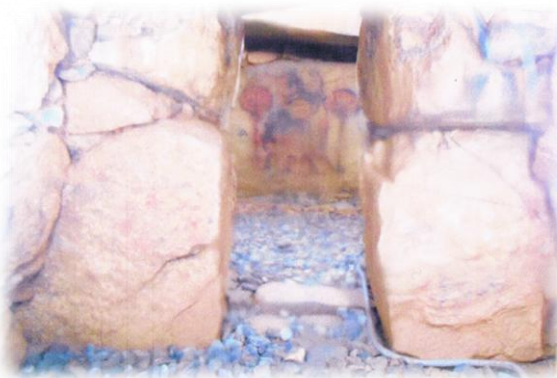
雲割れて冬日ゆたかや古墳山

鳥居より芦原のぞく冬の暮

入海の長き八重波海鳥啼けり
こめ

冷まじや腹の割れたる仁王像

冷水の喉に沁み入る四温かな



笹鳴き

高橋孝子

色薄き朱雀玄武に瞳冴ゆ

笹鳴きや小山田社への礎けはし

落ち葉ふむ神と仏のおはす中

両子寺の霊水甘し紅葉散る
ふたこじ

天空の石橋細し四温晴



冬すみれ

中根多子

杉林の間に銀杏の黄葉散る
もみじ

竹原古墳南天の実のかがやけり

全山を覆ふ紅葉や古墳径

国東の山々晴れて冬ぬくし

古墳の垣すきに小さき冬すみれ



トピックス

おたあジュリアと島のおばあさん ～伊豆七島・神津島～

年の暮れに名古屋で、演劇集団わらび座の「ジュリアおたあ」という舞台を見ました。劇のヒロインは、戦国から江戸時代にかけて日朝の間(はざま)で数奇な運命を生きたキリシタンの朝鮮人女性で、「ジュリア」は、洗礼名、「おたあ」は、日本で与えられた名でした。



ジュリアの図

彼女は、少女のころ、怒濤の如く朝鮮を侵略してきた秀吉軍の先鋒、小西行長によって保護されます。

いらい彼女は、行長の領地の九州・宇土城でキリシタンである行長夫妻の娘分として温かく育てられキリスト教の信仰にも目覚めていきます。ところが、間もなく起こった天下分け目の関ヶ原の合戦で西軍に組した行長は切腹、小西家は断絶となります。

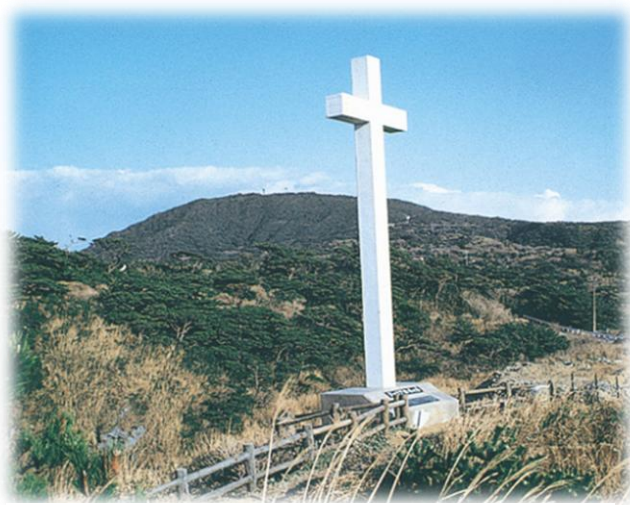
その後、おたあは、いきさつは不明ながら、今度は、駿府にいた徳川家康の侍女に召し出されます。

家康の信任は、ことの外強かったというものの、キリシタン禁教令を頑として受け入れなかったため、伊豆七島の大島、新島 最後は、神津島までながされ、そこで一生を終えたと伝えられていました。

わらび座の舞台は、おたあが小西夫妻の下で、のびのびと育てられる所から、家康の侍女となったものの棄教を拒んで流刑となるまでを巧みに描いていて感銘を受けましたが、私は、舞台を見ながら 43 年前の神津島の港の光景に想いを馳せていました。

昭和 47 年の秋 10 月 23 日のことでした。私は、放送局のディレクターとして、神津島の村長たちが薄幸の女性、おたあジュリアの魂を祖国、韓国に帰し、ソウルにある殉教者墓地に納めようとするニュースの取材に来ていました。村長たちは、島の流人墓地にある「おたあの墓」という墓石の前の土を壺に入れ、連絡船に乗り込みました。汽笛が鳴って船が動き始めました。その時です。埠頭にいた老婆が大きく泣きじゃくりながら叫び始めました。「ああ～、おたあさまが行ってしまう…、おたあさまが居なくなってしまう！」その、おばあさんは私たちが 2 泊した民宿のおばあさんでした。なんでも、その昔、彼女の夢枕に「おたあさま」が現れて「私は淋しい。一人ぼっちだから会いに来ておくれ…」と言ったというのです。

信心深い彼女は、それならばと小さな畑に花を育て、おたあさまの墓に一年中、供花を絶やさないようにしてきましたと話してくれました。



ジュリアの記念碑と風景

「おたあさま～！おたあさま～！」と叫ぶおばあさんの悲痛な声は、連絡船が港を離れるまで、かすかに聞こえていました。彼女は、本当に最愛の人の魂が島から去っていき、自分がとり残されてしまうと地団駄を踏んで悲しんでいたのです。私は、その時、おたあさまの魂は、神津島で心温かい友を得たのではないかと思ったものでした。

あの時から 40 数年、その後、おたあジュリアが神津島で本当に亡くなったかどうかは、分らなくなっています。しばらく前に 1622 年に日本にいたイエズス会の神父が日記に「伊豆にいた流人ジュリアが島から助け出され今、大阪にいる」と記していたことが明らかとなったからです。

おたあがどこで亡くなったかは、しばらく置いておきましょう。



おたあの墓と言われている墓



사무국 후기 事務局後記

会報 76 号の編集をほぼ終えた 12 月 28 日、夕刻日韓に関する大きなニュースが発表されました。ご存じの通り、“日韓両国政府が慰安婦問題で最終的に合意し決着を図った”という内容でした。28 日、ソウルで開かれた日韓外相会談で日本は「慰安婦に関して旧日本軍の関与を認め責任を痛感する」と表明、安倍首相も「心からのおわびと反省の気持ち」を明らかにしました。

それよりも私たちにとって、薄幸のおたあの周辺にいた人たちが彼女に深い愛情をよせていたことが嬉しい情報と言えるのではないのでしょうか。

小西夫妻は、朝鮮で保護した少女をまさしく自分の娘同様に愛情をそそいだといいます。駿府時代の侍女や侍の中にも、彼女の人柄に打たれキリスト教に入信した者もいたそうです。そして、神津島では、島の人々は今でも「おたあさま」と呼んでいます。それは、おたあが少女時代から流人時代まで一貫して、一人の人間としてキリシタンとして、誇り高く生きた女性だったからに違いないでしょう。



具体的には、韓国政府が設置する財団に 10 億円を一括拠出し、慰安婦を支援する事業を行くとしています。会談の結果、日韓政府は「この問題について最終的かつ不可逆的に解決された」と表明しました。永い間、迷走を続け、両国間の友好に暗い影を投げかけてきた慰安婦問題も、ひとまず決着を見たこととなります。もちろん、慰安婦の支援団体が、この決着に反発する姿勢を見せているなど、懸念は残るものの私たちは、今回の動きを“日韓新時代”への両国首脳の決断として歓迎しようではありませんか！新しい 2016 年私たちも民間交流の努力を小さくとも、ひとつひとつ積み上げていくことを決意していきましょう。

編集 応援（非会員）中川修介

前副幹事の中川です。非会員となりましたが、市民ネットワークなごやが続く限り、少しでもお役に立てることを願い、今年もお手伝いさせていただきます。会員の皆様のお元気な姿でお会いできることを楽しみにしています。今年もよろしくお願い致します。

